

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2003/09/07 Vol. 10 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会平成 15 年第 3 回定例会が開催されます。

今回の定例会は 9 月 10 日（水曜日）から 24 日（水曜日）まで行われます。

「ぐんじとしのり」は、12 日（金曜日）午後 3 時頃から、60 分間の個人質問に立ちます。
（今回は、「基本構想に基づく市政運営のありかた」、「千葉ニュータウン事業と印西市の
関わりかた」、「牧の原駅圏の将来」の 3 点を質問テーマとします。）

（その内容は抜粋して後述します。）お時間があるかたは、是非とも傍聴にお越しく下さい。

傍聴を希望される方は、印西市役所 5 階にて諸手続きを行い、傍聴券の交付を受け、
傍聴を行うこととなります。尚、定員は 36 名です。よろしくお願い致します。

ぐんじとしのり 9 月定例会 個人質問内容

以下の内容を議会事務局に既に提出し、今回の議会で質問に立ちます。

1. 印西市基本構想と今後の市政運営について

印西市基本構想に対する基本姿勢には以下のような記述が見られる。

「平成 12 年 4 月から施行された地方分権一括法により、国や県からの権限委譲がすすみ、
全国均一の自治体運営から、地域の事情を反映した責任ある施策の選択・実施とその積み
重ねによる独自の自治体運営が求められる時代になってきている。」

現在、印西市第 2 次実施計画の 2 年目にあたるわけだが、現在までを振りかえり、
この基本構想の理念は今後どのような形で施策として表れてくるのだろうか。

（ 1 ）印西市第二次実施計画によれば、平成 14 年度末の年別人口および世帯は、
人口 66000 人、世帯人口 20600 世帯であったが、15 年 8 月現在、この数値を下回っている。
現状の数値をどのように分析し、今後、具体的にどのような施策で印西市に人を
呼びこんで行くのか。

（ 2 ）基本施策の大綱には「互いに差さえ合い心が通う、まちづくり」が掲げられている
が印西市第 2 次実施計画には基本構想中に記載されている以下の 2 項目についての施策が
ないようである。以下の 2 項目については、今後、どのような施策を行っていくのか。

- （ ）活力ある長寿社会の創造について
- （ ）低所得者福祉の充実について

2. 千葉ニュータウン事業と印西市のかかわりについて

（ 1 ）土地の賃貸、売却に関して、市はどこまで関与できるのか。

（ 2 ）空き地には背より高い、草が生い茂る。市民からの苦情も
多く寄せられる。市として、雑草の刈り込みを積極的にできないのか？

3. 牧の原駅圏の将来について

（ 1 ）郵便局の誘致について

（ 2 ）交通規制について

（ 駐車禁止標識と横断歩道の設置について ）

平成 15 年印西市議会第 3 回臨時議会が開催されました。

7 月 22 日に開催され、平成 15 年度印西市一般会計補正予算について討議されました。内容としては、市民号の実施にあたっての補助金の補正についてのみであり、私は北総公団線への支援も充実すべきある旨を主張し、議案については賛成しました。

平成 15 年印西市議会第 4 回臨時議会が開催されました。

8 月 4 日に開催され、平成 15 年度印西市一般会計補正予算について討議されました。(今回は議案として「都市廃棄物空気輸送施設維持管理に要する経費」についてが提出され、その内容について議論が交わされました。～ゴミ空気輸送システムを維持管理する為のコンピュータを入れ替えさせて欲しいという「都市基盤公団」からの要望による議案で、印西市の予算からの持ち出しはゼロ円でした。)

(結果/可決、私は自分の考え方を「討論」として表明し、今回は賛成しました。)

以下にその理由を記載します。

1. 都市廃棄物空気輸送、つまり、ゴミ空気輸送システムを導入した経緯について。千葉ニュータウン都市地区を単なるニュータウンの核ではなく、北総地域全体の核として、戦略拠点として公団が期待した。つまり、この事業は、公団主導の下に、事業化を図ってきたもので、ゴミ処理については、市町村の義務であるということ、町には財政的負担をかけないということから、平成 4 年度より、形式とはいえ、当時町が事業主体となり、都市計画施設として、国の補助や新住事業者の負担により、公団に委託、事業を進めてきて、現在に至る。というのが現状です。

しかし、事業開始後の社会経済状況の変化や、ごみ収集を取り巻く環境の変化が著しいことから、さまざまな課題が生じた為、都市基盤整備公団では来夏の独立行政法人「都市再生機構」への移行を前に維持費の赤字全額負担を中止したい旨、伝えてきました。

(印西市がこの施設維持に拠出している金額は、この空気輸送システムを導入している地区に対して収集車を巡回させる費用と同一の金額のみです。)

2. 事業の継続について、私は「反対」を表明しました。公団から「事業を移管し、赤字を全額負担して、欲しい」との申し入れに「はい。そうですか。では、印西市が赤字分を全額負担して事業を継続しましょう。」というわけには当然いきません。導入当初は全額公団が持ちます。と言っておき、事業が思ったとおり進まないから、ゴミに対する社会的事情が変わった等の理由で、市民に負担を押しつけるつもりなのではないでしょうか？導入したときの約束はどうなるのでしょうか？如何なる事情が変わると、一旦負担をすと言うなら、負担をすべきではないでしょうか。これが原則です。

3. しかし、今回は議案と印西市の負担、市民への負担の結びつきを考えた場合、事実上、印西市の負担、市民への負担はありません。公団が自らの経費でコンピュータの入れ替えを行わせて欲しいというのが議案でした。その上で、今、現在空気輸送システムが稼働している以上、その安定性、安全性を確保するのは、施設を使用している市民、企業に対しての責任を果たす上で当然のことだと考えます。コンピュータの入れ替えをせず、そのままにしておき、ある日突然、「故障しました。ですから事業は終了します。」雪崩的に事業の収束を図ってしまえというのは、あまりにも乱暴なのではないでしょうか。事業の収束については、私の考えはゴミの空気輸送システムについては早期収束ですが、赤字だからやめようという話と、今回の議案は切り分けて考える必要があると思います。

4. 現在、事業は 7 年後の収束にむけて、市への施設移管を伴い(公団から補償金を受け)終了するという流れになってきております。今後の動きに注視してまいりたいと思います。

いつもお世話になっております。今後ともよろしく願いいたします。 ぐんじとしのり